

5. 日本の歴史（3）

中世 (12～16 世紀)

今までの支配者、王朝貴族に代わって新興の武士が政権を握り、封建制度を築き上げていく。

・鎌倉時代 12 世紀末、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて武家政権が誕生した。それから 1 世紀半の間、東の鎌倉の武士は、西の京都の公家と対立しながら、封建社会を形成していった。13 世紀後半、モンゴル軍が 2 度にわたって九州北部に來襲したが、武士団の奮戦と大暴風雨のおかげでこれを退けた。しかし、これを契機に幕府の武士統制が困難となり、幕府は滅亡の道を歩むことになる。

文化面では、従来の公家文化を基礎に、動的、写実的で素朴な独特の武家文化が育っていった。

宗教面では、法然・親鸞・日蓮などの名僧によって鎌倉仏教が生まれた。関東の武士には 12 世紀に宋から伝えられた禅宗が重んじられた。芸術にも新傾向が起こり、鎌倉時代初期の彫刻は力強い写実性、豊かな人間味の表出で新風を巻き起こした。文学では武士の好みを反

映して「平家物語」(原作は 13 世紀初め) のような軍記物語の傑作が出た。その他、

随筆集『方丈記』(13 世紀)、『徒然草』(14 世紀)などが著された。

・南北朝時代 後醍醐天皇は鎌倉幕府を滅亡させたが、足利尊氏と対立し、京都の朝廷(北朝)と吉野(今の奈良県)の朝廷(南朝)が並立した。両朝の擁立を名目として、全国の貴族・武士

は抗争を繰り返した。また広範な民衆がこの動乱のために日本各地を移動し、東と西の異質^{いしつ}な文化が融合した意味は大きい。

・**室町時代** 14 世紀後半、足利義満^{あしかがよしみつ}が京都の室町幕府を安定させてから 2 世紀余りの間に、政治・文化面とも、武家が公家を圧倒して優位に立った。室町幕府は諸国の有力な守護^{しゅご}大名の力を集めて成立していたため、統制力が弱く、15 世紀後半に入ると、全国各地に大名が群立する戦乱の世、いわゆる戦国時代となった。戦国大名はその地域の土地・人民を支配する強力な独立政権となり、武士が農民を支配する封建社会が成立する。経済面では明貿易など商業の進展が見られた。

文化面では、公家と武家の文化に禅宗^{ぜんしゅう}の影響が加わった、14 世紀末の金閣に代表される北山文化、15 世紀末の銀閣に代表される東山文化が栄えた。能・狂言・連歌など庶民も楽しめる文化が発達し、地方へも広まった。日本の伝統文化を代表する茶道^{さどう}・華道^{かどう}も、この時代に基礎が固まった。16 世紀半ばに、南蛮人^{なんばんじん}（ポルトガル人・スペイン人）が渡来して、鉄砲^{てつぽう}やキリスト教を伝えた。

6.日本の歴史（４）

近世（16世紀～19世紀半ば）

将軍と大名が土地・人民を統治し、経済的には農業生産に^{ささ}支えられる、いわゆる^{ばくはんたいせい}幕藩体制が確立する。

・^{あづち}安土・^{ももやま}桃山時代 戦国の戦乱が治まって全国の統一が完成し、^{おだのぶなが}織田信長と^{とよとみひでよし}豊臣秀吉が政権を^{にぎ}握った時代。国内の統一とともに海外との交渉も活発に展開して、^{ごうか}豪華で壮大な桃山文化を生んだ。

・^{えど}江戸時代 ^{とくがわいえやす}徳川家康は、1603年に幕府を江戸(^{えど}今の東京)に開き、以後260余年間、徳川氏が全国を支配する。幕府は天皇・公家・寺社を厳しく統制し、^{ばくはんたいせい}幕藩体制を支える農民の支配に心^{くだ}を砕いた。17世紀前半、^{しょうぐんけひかり}3代将軍家光のとき、鎖国によって幕藩体制の安定期を迎えるが、産業の発達、商品経済の発展に^{ともな}伴い、農民の^{じきゅうじそく}自給自足の^{けいえい}経営が^{くず}崩れ、19世紀ごろから幕藩体制が^ゆ揺らぎ^{はじ}始める。

庶民の文化がこの時代の特色。17世紀末から18世紀初めの^{げんろく}元禄文化は、京都、大坂などの上方地方を中心とする武士と町民の文化で、^{にんぎょうじょうり}人形浄瑠璃・歌舞伎・工芸などが盛んになった。特に町人文芸に^{すぐ}優れ、小説の^{いはらさいかく}井原西鶴、俳諧の^{まつおばしょう}松尾芭蕉、人形浄瑠璃・歌舞伎の

脚本作者^{きやくほん}近松門左衛門^{ちかまつもんざえもん}などが出た。19 世紀初めの化政文化は舞台が江戸に移り、小説・

歌舞伎・浮世絵・文人画など多彩^{たさい}な町人文化^{さか}が栄えた。

教育、学問も普及^{ふきゅう}した。武士は幕藩体制維持^{ぼくはんたいせい}の理論的根拠^りとなる儒学^{じゅがく}、特に朱子学^{とくしゅしがく}を学ん

だ。18 世紀以降、日本の古典を研究する国学や蘭学が発達した。多くの藩 (大名の領地) で

子弟教育用の藩校^{はんこう}が設立され、民間では庶民の初等教育機関^{しよとうきやういくきかん}である寺子屋^{てらこや}が多くできた。

近代・現代 (19 世紀半ば～現代)

19 世紀後半の開国を機に、日本は半世紀で近代国家に急成長する。

・明治 欧米^{おうべい}の先進諸国^{せんしんしよこく}に追いつくために、政府は富国強兵^{ふこくきやうへい}、殖産興業^{しよくさんこうぎやう}、文明開化^{ぶんめいかいか}をモ

ットーに、憲法の制定、国会の開設、不平等条約の改正など、近代化政策を次々に実行し

た。日清戦争^{にっしんせんそう}・日露戦争^{にちろせんそう}の勝利^{しょうり}を契機に、産業革命が進行し、資本主義が発達して、国際

的地位も次第に上がった。明治の文化は、 伝統文化と欧米文化が対立し、統合されてい

く方向で発達していった。

・大正・昭和 第一次世界大戦以降の日本は、大正デモクラシーのような民衆勢力の台

頭はあったものの、帝国主義的傾向^{ていこくしゆぎ}を強め、昭和前期の 1930 年代から十五年戦争に突入

する。太平洋戦争の敗北^{はいぼく}を機に、日本は唯一の被爆国^{ひばくこく}として、戦争を放棄^{ほうき}し、自由で平和

な文化国家の建設^{けんせつ}を旨とするようになった。

